

hokan

三井物産インシュアランス・ホールディングス等が出資

### 約15億円の資金調達を実行

(株)hokanは10月6日、第三者割当増資およびデットファイナンス(融資枠を含む)により総額約15億円の資金調達を実行したことを発表した。これにより累計調達額は20億円超となった。

第三者割当増資引受先は▽三井物産インシュアランス・ホールディングス(株)▽Archetype Ventures▽Sony Innovation Fund(順不同)。借入先金融機関等は▽あおぞら企業投資(株)▽静岡銀行▽(株)商工組合中央金庫▽(株)Fivot(Flex Capital)▽(株)北陸銀行▽(株)みずほ銀行▽(株)三井住友銀行▽(株)

そな銀行。

今回の資金調達では、第三者割当増資による財務基盤強化とデットファイナンスの活用による加重平均資本コストの低減を両立。三井物産グループの三井物産インシュアランス・ホールディングスによる出資を受け入れたことにより、事業提

携による成長加速を企図している。

なお、Archetype VenturesとSony Innovation Fund

の出資は、プレシリーズAラウンド(2018年11月)、シリーズAラウンド(2019年9月)に続き3回目となった。

保険業界は国内50兆円の有数の巨大市場であり、保険流通を担う保険募集人の数は200万人以上といわれている。2016年の改正保険業法では、顧客

の契約に対する意向を適切に記録する「意向把握義務」と、顧客の希望条件に該当する保険商品はすべて提案しなければならない「情報提供義務」が導入され、各保険代理店が「より適正に保険を届ける仕組みづくり」を行うことが求められてきた。

このような業界内での法改正や規制強化が進むにつれて、同社のクラウド型保険システム「hokan@」は日々ニーズを高めてお

り、特に、態勢整備・コンプライアンスに強みを持つことから、多くの業種・企業に利用されている。今回、顧客基盤の拡大・プロダクト開発や新規事業開発を強化し、さらなる成長を模索するため、資金調達を実施するに至った。

り、特に、態勢整備・コンプライアンスに強みを持つことから、多くの業種・企業に利用されている。今回、顧客基盤の拡大・プロダクト開発や新規事業開発を強化し、さらなる成長を模索するため、資金調達を実施するに至った。

同社は今回のシリーズBラウンドを契機として、顧客基盤の拡大・プロダクト開発や新規事業開発の強化を検討しており、具体的な取り組みとして①hokan@の導入を軸に昨年導入を実現した企業代理店チャネルの深耕を図ることで、顧客基盤の拡大を進め、今回出資した三井物産グループの支援も受けながら、保険会社や銀行等への横展開を進めるとともに、将来的には海外への展開も視野に入

る。②保険業界が非効率な業務に忙殺されている現状を変えるため、複数プロダクトおよびオプシヨンの開発を進める③保険流通のプラットフォームを

目指してさまざまな新しい取り組みを行う。新規事業開発の一環として、EV(電気自動車)オーナー向け特化型プラットフォーム事業であるFEVOW(フエボウ・フォーエヴ・オーナーズ)に取り組み。さらに顧客獲得や機能拡充等を目的とするM&A等も積極的に検討する④取り組みを実現するためエンジニアを中心に採用を積極化する一等を挙げている。

目指してさまざまな新しい取り組みを行う。新規事業開発の一環として、EV(電気自動車)オーナー向け特化型プラットフォーム事業であるFEVOW(フエボウ・フォーエヴ・オーナーズ)に取り組み。さらに顧客獲得や機能拡充等を目的とするM&A等も積極的に検討する④取り組みを実現するためエンジニアを中心に採用を積極化する一等を挙げている。